



たんまつを使うと、いろいろなじょうほうを友だちときょう有したり、まとめたことをわかりやすく発表したりすることができます。ここでは、たんまつを使ってきょう有したり、発表したりするときに知っておくべきことや気をつけるべきことについて学びます。

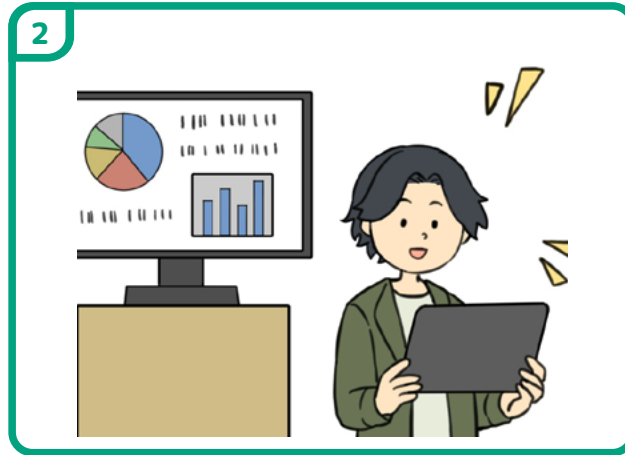
### さいしょにチェックしてみよう

- わたしは、たんまつを使って上手に発表できると思う
- わたしは、感想を具体的に伝えることができると思う
- わたしは、友だちの発表をきちんと聞いていると思う
- わたしは、自分の作品が勝手に書きこまれたとき、きちんと対おうできると思う

つか はっぴょう ようす  
たんまつを使った発表の様子です。クラスの前で発表しています。  
じょうず はっぴょう おも  
上手な発表だと思いうじゅんにならべてみましょう。



ずっとたんまつをみて発表している

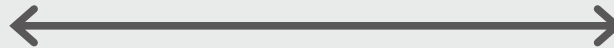


き聞いている人を見て発表している



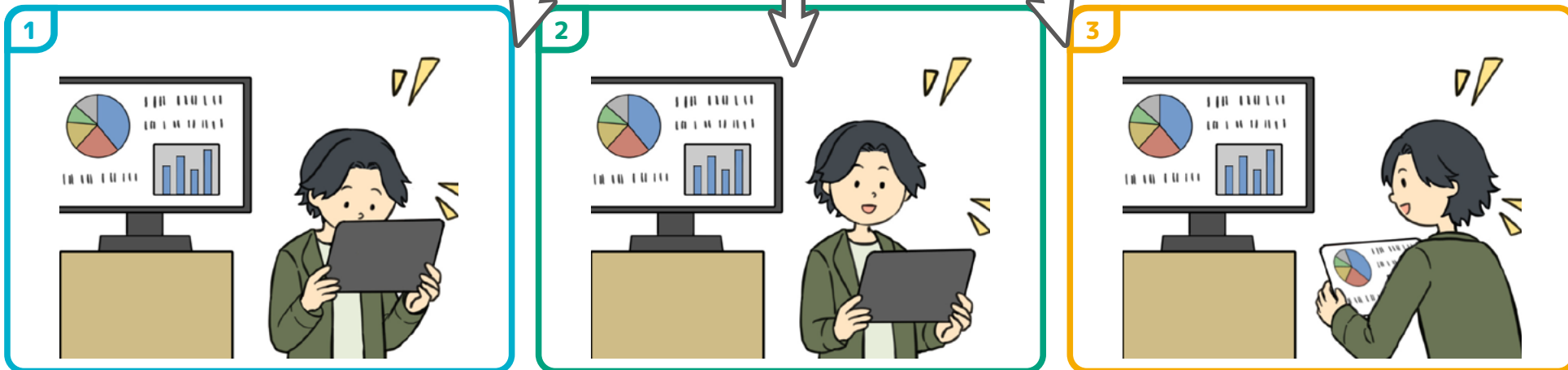
モニターをみて発表している

じょうず  
とても上手



じょうず  
上手ではない

とも  
友だちとくらべてみよう



## ★ スキルのポイント

たんまつやモニターを<sup>み</sup>ながら<sup>はな</sup>話してしまうと、どうしても<sup>こえ</sup>声<sup>まえ</sup>が前にとどきに<sup>き</sup>くくなります。できるだけ、<sup>き</sup>聞いている<sup>ひと</sup>人の方を<sup>ほう</sup>向いて<sup>む</sup>発表<sup>はっぴょう</sup>するとよいでしょう。

また、<sup>こえ</sup>声の<sup>おお</sup>大きさや<sup>はな</sup>話す<sup>はや</sup>速さなどもくふうしてみましょう。どのような<sup>こえ</sup>声の<sup>おお</sup>大きさや<sup>はな</sup>話す<sup>はや</sup>速さだと、<sup>き</sup>聞きやすい<sup>はっぴょう</sup>発表になるか、<sup>き</sup>ため<sup>はっぴょう</sup>してみましよう。

きゅう食しょくを作つくってくれた人ひとに向けて、今日きょうのきゅう食しょくのカレーの感想かんそうをつたえることになりました。

れい

今日きょうのきゅう食しょくは、おいしかったです。



上うへの感想かんそうを、よりよく伝つたわるように工夫くふうしてみましょう。  
どんなことをつけ加くわえると、よい感想かんそうになるでしょうか。

今日きょうのきゅう食しょくはおいしかったです。  
とくに、

## かい答れい<sup>とう</sup>

きょう<sup>きょう</sup> しょく<sup>しょく</sup>  
今日のきゅう食はおいしかったです。  
とくに、お肉<sup>にく</sup>がやわらかく、ニンジンがあま  
かったです。

とも  
友だちとくらべてみよう



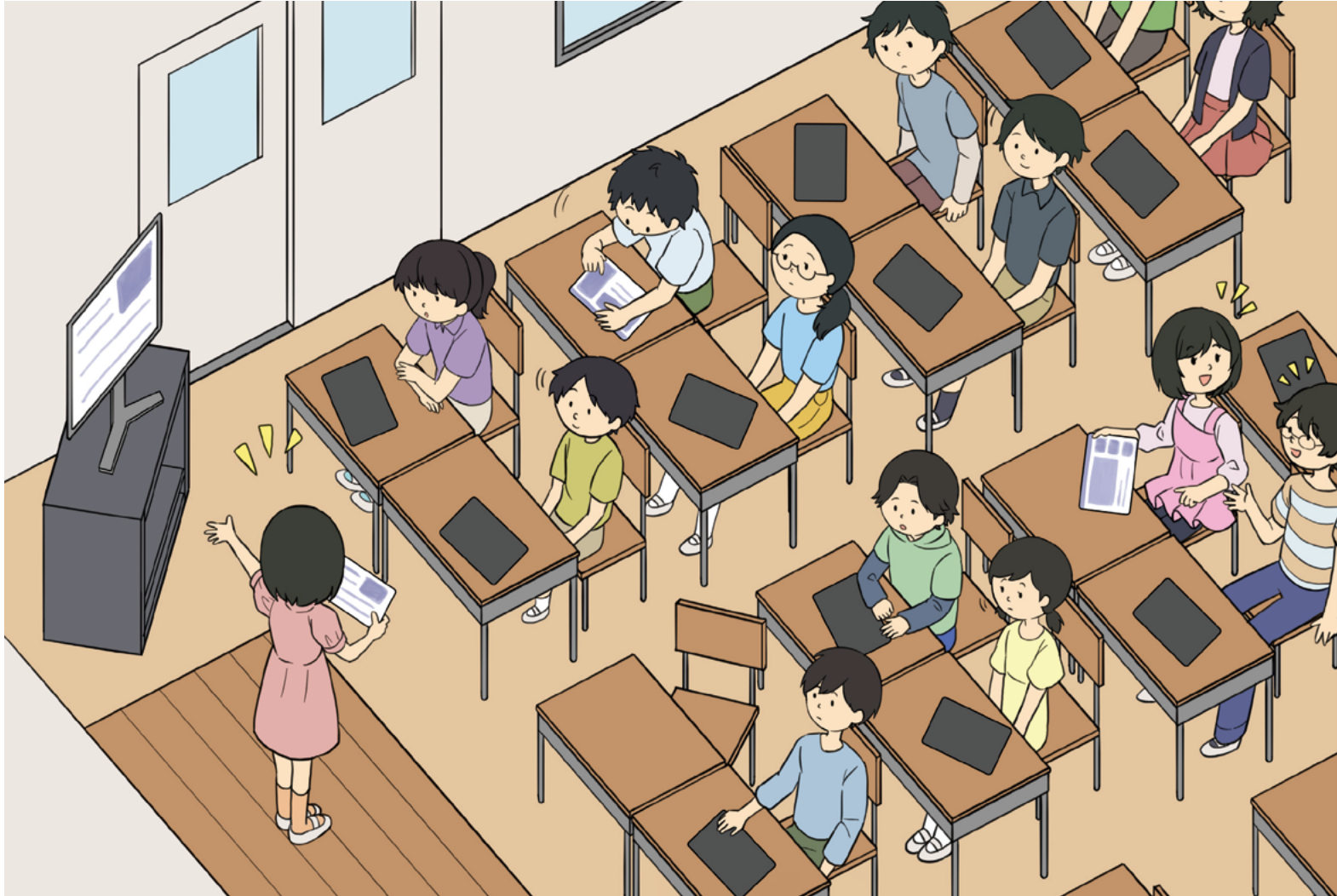
### ★ スキルのポイント

きゅう食<sup>しょく</sup>を作<sup>つく</sup>ってくれた人<sup>ひと</sup>は、どんなことを知<sup>し</sup>りたいでしょうか？

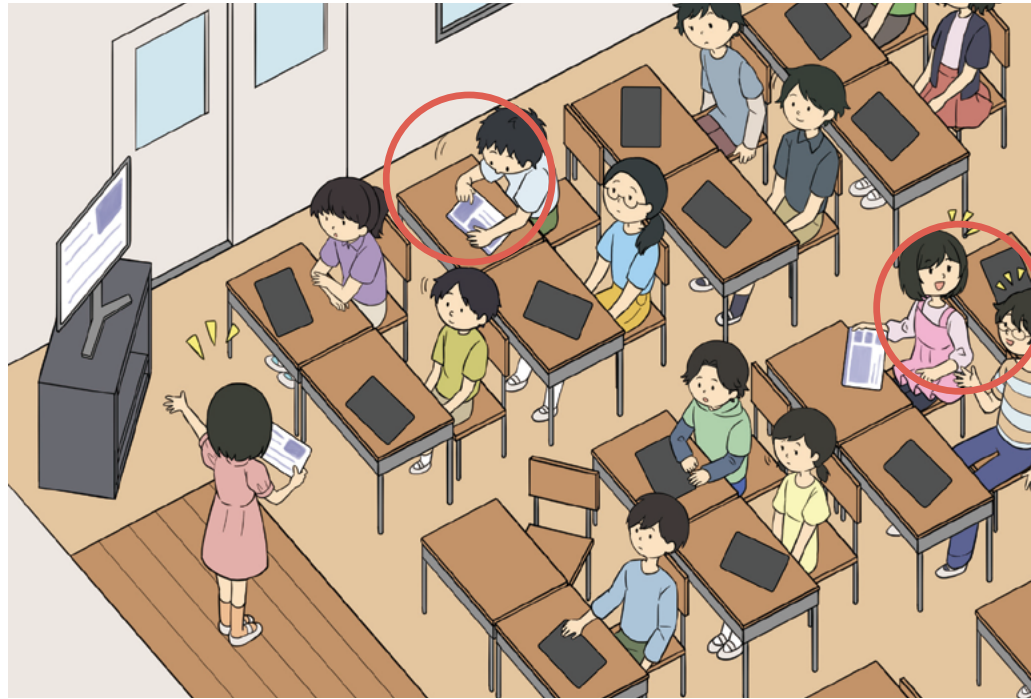
「おいしかった」だけでなく、カレーの何<sup>なん</sup>がおいしかったのか、具体<sup>ぐたい</sup>てきに知<sup>し</sup>りたいはずです。

かんそう  
感想をつたえるときは、具体<sup>ぐたい</sup>てきにつたえてみましょう。

つぎ  
次のイラストで、**発表の聞き方**について気になるところに○をつけましょう。



## とう かい答れい



### ☆ スキルのポイント

とも はっぴょう  
友だちが発表をしているときに、きちんと聞くことができているでしょうか？  
とも はっぴょう  
友だちが発表をしているのに、たんまつをさわっていたり、とも はな  
友だちと話をしていたりしていることはありませんか？  
はっぴょうしゃ はな  
発表者が話しやすいように、き かんが  
聞くためのくふうも考えてみましょう。



じぶん さいくひん み こうかい さくひん らくが  
自分のつくった作品を、みんなが見られるように公開したところ、その作品に落書きをされてしまいまし  
た。あなたならどのように対おうしますか。  
つぎ こうどう ほう  
次の3つの行動を「○ やった方がよい」「× やらない方がよい」にわけてみましょう。

1

くやしいので  
ほかひとさいくひん  
他の人の作品に  
らくが  
落書きする

2

らくが ようす  
その落書きの様子を  
き  
記しておく

3

らくが  
落書きされたことを  
せんせい  
先生にそうだんする

○ やった方がよい A

B × やらない方がよい



○ やった方がよい **A**

2

らくが  
き  
その落書きの様子を  
き  
記録しておく

3

らくが  
き  
落書きされたことを  
せんせい  
先生にそうだんする

**B** × やらない方がよい

1

くやしいので  
ほか  
ひと  
さくひん  
他の人の作品に  
らくが  
落書きする

★ スキルのポイント

クラスの他の人の作品を自由に見ることができるのは、とてもべんりですが、なかには勝手に作品に書きこみをしたり、落書きをしたりする人もいます。そんなときは、まずはその落書きの様子を記録しましょう。

画面の様子を記録することをスクリーンショットと言います。

そのスクリーンショットとともに先生にそうだんしましょう。





## まとめ

### じょうず つか 上手に使うために

たんまつ<sup>つか</sup>を使って「きょう有<sup>ゆう</sup>」や「発表<sup>はっぴょう</sup>」を行う<sup>おこな</sup>場合には、相手<sup>あいて</sup>のことをいしきするひつようがあります。どんな人<sup>ひと</sup>がこのじょうほう<sup>う</sup>を受けとるのかを想<sup>そう</sup>ぞうしながら、「どうすれば相手<sup>あいて</sup>につたわりやすいかな」ということを考え<sup>かんが</sup>、くふうしてみましよう。

### チェックしてみよう

- わたしは、たんまつ<sup>つか</sup>を使って上手<sup>じょうず</sup>に発表<sup>はっぴょう</sup>することができる
- わたしは、感想<sup>かんそう</sup>を具体的<sup>ぐたいてき</sup>に伝<sup>つた</sup>えることができる
- わたしは、友だち<sup>とも</sup>の発表<sup>はっぴょう</sup>をきちんと聞<sup>き</sup>くことができる
- わたしは、自分<sup>じぶん</sup>の作品<sup>さくひん</sup>に勝手<sup>かって</sup>に書<sup>か</sup>きこまれたとき、きちんと対<sup>たい</sup>応<sup>おう</sup>することができる